

伊賀流自治の視点

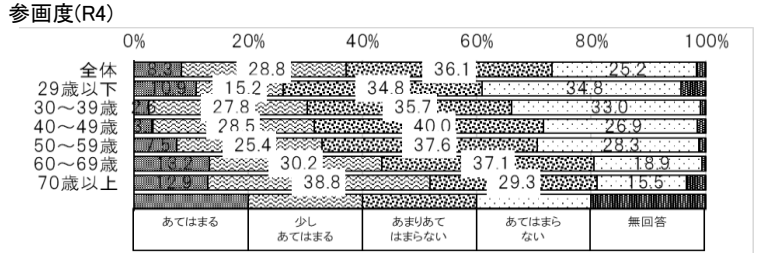
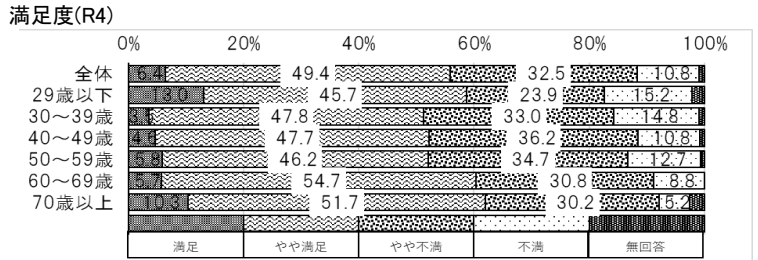
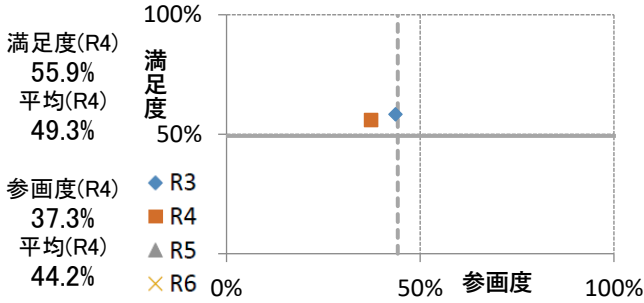
【担当部署】

地域連携部

- ・住民自治協議会が自主自立した地域づくりを行うため、地域の課題解決や情勢の変化に迅速に対応したサポートを行います。
- ・市民公益活動団体等の、安定的、持続的な活動を支援します。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2022(R4)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	<b>住民自治</b> 住民自治協議会に対し、住民自治に関する研修会や勉強会を開催し、住民自治活動の活性化を図り活動への参画を促進するとともに、住民自治活動の拠点となる地区市民センターの指定管理者制度の導入をめざします。 また、持続可能な地域づくりに向けて、地域包括交付金やキラッと輝け！地域応援補助金などの財政支援を行うとともに、地域担当職員や市民活動支援センターでの相談体制を充実させることにより、住民自治活動を支援します。	○住民自治協議会推進経費 ・地域まちづくり計画の進行管理 ・地域包括交付金やキラッと輝け！地域応援補助金等による財政支援 ○自治振興経費 ・地区公民館建設費補助事業 ・コミュニティ助成事業 ○地区市民センター維持管理経費 ・地区市民センター運営管理 ・指定管理者制度導入支援 ○地区市民センター施設改修事業 ・第2期実行計画に基づく整備	成果指標	キラッと輝け！地域応援補助金 申請件数					
			成果指標の説明	令和元年度の申請件数を起算値として、団体からの補助金申請件数の累計値					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(件)	11	42	61			81
2	<b>市民活動</b> 市民活動支援センターにおいて、市民活動団体の活動内容などの情報を積極的に発信することで、市民活動に対する市民の関心を高め、自主的なまちづくり活動への参加を推進します。また、各種研修会の開催や市民活動支援員による相談体制の充実を図り、市民活動団体の活性化を促進します。 市民の自主的なまちづくり活動を支援し、個性的で魅力あふれる地域づくりを推進するため、地域活動支援事業を実施し、市民活動団体の継続的な活動をサポートします。	○ゆめぼりすセンター維持管理経費 ・ゆめぼりすセンター運営管理 ・市民活動支援センター運営管理 ○地域活動支援事業 ・地域活動支援事業補助事業 ・N-1グランプリ開催事業	成果指標	市民活動支援センター 利用件数					
			成果指標の説明	市民活動相談件数、情報交流スペース利用件数、印刷機利用件数の合計件数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(件)	1,307	950	1,257			1,372
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績( )						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績( )						

# まちづくりアンケート調査結果



傾向

- ・満足度、参画度も決して高いとは言えない。
- ・他の年代と比較して30歳以上39歳以下、40歳以上49歳以下、50歳以上59歳以下の満足度が低い。
- ・59歳以下の参画度が低い。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	住民自治協議会がそれぞれの地域の現状と課題を捉え、それを地域の工夫と努力で解決するために、キラッと輝け！地域応援補助金等を有効に活用している。	計画通り進めている
	課題	地区市民センターの指定管理者制度導入については、専門家による労務・税務相談を通年で実施し、導入を検討する地域の疑問や不安を解消している。また導入後も、住民自治協議会が指定管理者として適正運営するための相談に応じ、地域の安心感の担保に寄与している。	
2	効果が出ている点	地域住民の減少や高齢化により、地域によっては従来からの地域運営組織としての役割の維持・存続が難しく、その状況に抗うことが難しい中にあるは、それぞれの課題に応じた取り組みに対して必要な支援を行うことが重要である。そのため、地域担当職員には地域の課題やニーズを把握し、その解決に向けて地域とともに考えていくことが求められることになる。多くの住民自治協議会は、取り組んでいる事業活動の情報を広く発信することでの弱さを認識しており、そのことがあらゆる人たちの活動参加を誘発できない要因の一つになっている。	計画通り進めている
	課題	「N-1グランプリ」への参加をきっかけとして、定住自立圏域内の参加団体同士の交流が行われている。新たに市民活動支援センターのホームページを開設し、活動内容や施設の情報を広く発信することができている。	
3	効果が出ている点	・市民活動団体の活動内容などの情報を市民活動支援センターが積極的に発信し、市民活動に対する市民の関心を高める。	
	課題	・市民活動支援員による相談体制を充実し、市民活動団体の活性化を促進する。	
4	効果が出ている点	市民活動やボランティア活動が活発であることは、まちづくりにとって必要なことであるが、その活動に対する市民の関心を高めることを目的の一つとして実施している研修や講座等が、市民の自主的なまちづくり活動への参加へとなかなか結び付かない。また同じように、市民活動支援センターの利用者拡大にも至らない。	
	課題	「N-1グランプリ」を通して、市民活動団体の情報が広く周知され、市民が活動に興味を持てば、まちづくり活動にも参加するきっかけにもなる。	

伊賀流自治の視点

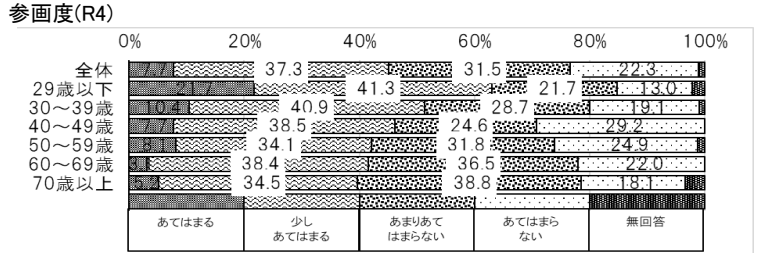
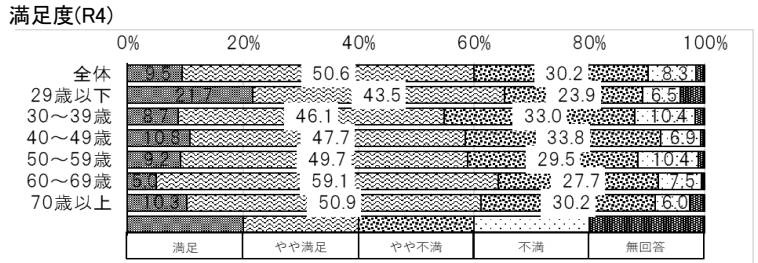
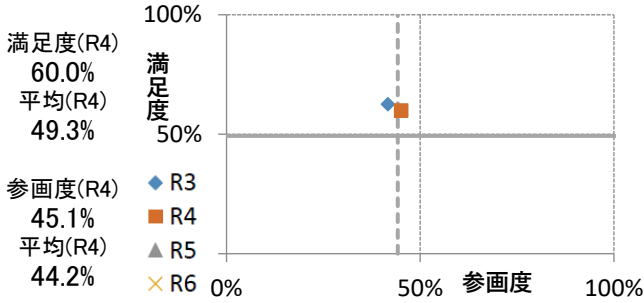
【担当部署】

人権生活環境部

- ・多言語だけでなく「やさしい日本語」での対応を広めるとともに、外国人住民の生活をサポートする機能を充実させるなど、必要な情報を提供できる体制を構築します。
- ・外国人住民に自治会への加入を促し、地域コミュニティの一員として社会参画できるまちづくりを支援します。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2022(R4)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	<b>多文化交流</b> 多文化共生社会の実現に向け、(仮称)伊賀市多文化共生指針に基づき、伊賀市国際交流協会やNPO等と連携し、多文化理解を深めるための講座やイベント等を実施します。また、多文化共生社会を推進するサポーターを養成し、地域や学校等での多文化交流を促進します。	○多文化共生推進事業 ○多文化共生センター管理運営経費 ・外国人とのコミュニケーション方法や文化などを紹介する多文化共生理解事業を行った。 ・出前講座を市内小学校・商工会議所等で行った。 ・交流事業を国際交流協会へ委託し実施した。 ・漢字教室や学習支援教室のボランティア養成講座を行った。 ・「やさしい日本語」について、広報やケーブルテレビ等で市民周知するとともに、研修会を実施した。	成果指標	日本人との交流がある外国人の割合					
			成果指標の説明	外国人住民アンケートで「市内に住む日本人とどのような付き合いがありますか」の設問において、「日常生活の話(世間話)をする」「困ったときに助け合っている」「家族同様に親しく付き合っている」と答えた人の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	22.8	56	56.3			30.0
2	<b>外国人住民への支援</b> 伊賀市多文化共生センターにおいて、多言語での相談や生活支援を行うほか、必要な情報を集約し、発信するなど外国人住民への支援の充実を図ります。また、多文化共生にかかる日本人の相談窓口としての機能を充実させ、人や文化の交流を促進します。	○多文化共生推進事業 ○多文化共生センター管理運営経費 ・伊賀市多文化共生センターにおいて、健康推進・子育て支援等の部局と連携し、一元的相談窓口で相談事業を行った。 ・新型コロナウイルス感染症感染防止対策などの各種情報をSNSなどの媒体を活用し多言語で提供した。 ・マイナンバー多言語対応休日申請窓口を住民課と合同開催を実施した。 ・テレビ通訳、AI翻訳を13言語まで対応できる業務を委託した。 ・「伊賀市多文化共生推進プラン(第1期)」を策定した。	成果指標	伊賀市に住んでよかったと感じている外国人の割合					
			成果指標の説明	外国人住民アンケートで「伊賀市に住んでよかったと感じていますか」の設問において、「とても感じている」または「だいたい感じている」と答えた人の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	79.8	92	82.5			84.0
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績( )						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績( )						

# まちづくりアンケート調査結果



傾向  
・平均と比べ、満足度が高い。  
・29歳以下の参画度が高い。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	<p><b>効果が出ている点</b> 自治会から地域の外国人への通知等の翻訳依頼があり、地域の住民として受け入れ共生していることとされる行動がみられる。(R4年度上半期実績:8地区4言語、12件) 学校においても、社会見学や多文化理解出前講座などの機会をもち多文化共生の理解を深めている。</p> <p><b>課題</b> ・日本人住民と外国人住民が多様な文化を認め合い交流が図れるよう、意識啓発を行うとともに、交流の機会を創出する必要がある。 ・多文化交流のため「やさしい日本語」などを普及・活用し、市民一人ひとりが交流できる地域づくりを進める必要がある。</p>	<p>○新規事業案 ・多言語版 生活ガイドブックの作成 ・生活支援セミナーの実施</p> <p>○既存事業案 ・多文化交流事業の充実 ・「やさしい日本語」の研修実施・普及</p>	計画通り進めている
2	<p><b>効果が出ている点</b> 「伊賀市多文化共生推進プラン」策定に向け、庁内各課及び関係団体等との今後の具体的な取り組みについて検討することができた。 タブレット端末、映像通訳等の活用により、コロナ禍において相談業務や翻訳業務が急増しているが、円滑な通訳業務を行えた。 外国につながりをもつ児童生徒のための学習支援については、外部委託により開設することで持続可能な支援が行えている。</p> <p><b>課題</b> ・外国人住民が、日本人住民と安心して暮らし・活躍できる地域づくりを進めるための具体的な事業計画が策定できた。次年度から多文化共生社会の実現をめざし、事業を推進していく必要がある。 ・関係機関と連携し、多言語対応の情報発信を充実させる必要がある。 ・多文化共生センターを活用した事業を展開する必要がある。</p>	<p>○新規事業案 ・AI翻訳サービスの導入 ・関係機関と行政で組織する専門部会の開催及びプランの進行管理</p> <p>○既存事業案 ・外国人住民アンケート調査実施 ・国の交付金を活用し、多言語相談員の確保及びタブレット端末の活用など窓口対応の充実</p>	計画通り進めている
3			
4			



## 伊賀流自治の視点

【主担当部局】

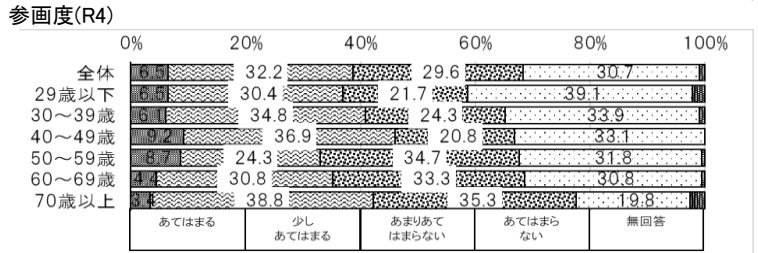
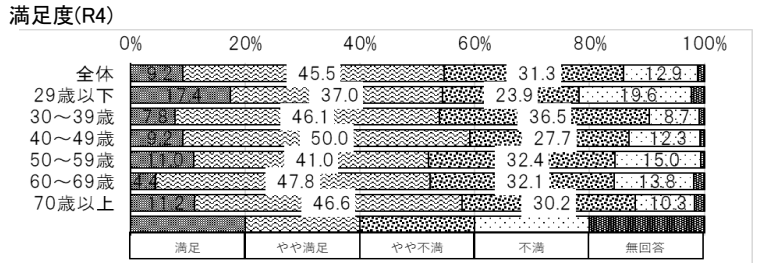
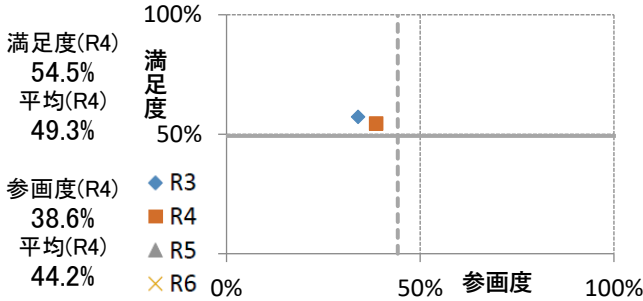
企画振興部

・市民誰もが暮らしの中で文化・芸術に触れることにより豊かな感性と創造力を育むことができるよう、機会の提供と充実に努めます。

・市民の文化・芸術意識の向上を図り、情報発信や人材育成等に取り組むことで、さまざまな文化・芸術の継承・創造を促し、まちづくりや産業に活かします。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2022(R4)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	文化・芸術振興 文化振興ビジョン及び文化振興条例を踏まえた文化振興プランを策定し、それに沿って文化・芸術振興の具体的な取り組みを進めることで、市民の文化・芸術意識の向上を図ります。文化振興ビジョンで、伊賀市の文化振興の中心的存在と位置付けられた(公財)伊賀市文化都市協会などと連携し、市民が芸術に触れる機会を提供します。市民、芸術団体の活動支援を行い、文化・芸術活動の担い手を育成します。	○文化振興経費 ・伊賀市文化振興プランの推進 ・生誕100年元永定正展の開催 ・生誕100年岸宏子事業の開催 ・上野城薪能の開催 ・こども能楽教室の開催 ・「市展いが」の開催 ・岸宏子記念伊賀文学館の工事着手	成果指標	市民美術展覧会 出品者数、鑑賞者数					
			成果指標の説明	市民が芸術に触れる機会の提供及び活動支援、文化芸術活動の担い手育成への取り組みの効果を測るための指標。 市民美術展覧会の一般応募者と鑑賞に訪れた人数合計					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	1,542	1,233	1,144			2,000
2	文化施設維持管理 文化・芸術活動の拠点となる文化会館などホール施設の適切かつ効果的な管理運営を行い、施設環境の維持向上に努めます。子どもたちが次代の文化の担い手となるよう、優れた文化・芸術に触れ学ぶ機会づくりとして、ホール施設を活用した文化・芸術事業や、アウトリーチ事業を実施します。	○文化施設維持管理経費 ・文化会館ほか2施設、ミュージアム青山舘舎指定管理 ○文化施設改修事業 ・青山ホール吊天井等改修工事 ・青山ホール外壁等改修工事	成果指標	自主事業の入場者数全体に占める子どもの割合					
			成果指標の説明	伊賀市文化会館、あやま文化センター、青山ホールで開催される自主事業や、そこを拠点としたアウトリーチ事業の参加者数全体に占める子どもの割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	20	23	40			30
3	芭蕉翁顕彰 芭蕉翁の生誕地として、芭蕉文学と俳句文芸の調査研究、継承、啓発を行うとともに、関係団体や自治体と連携し、俳句の文化的価値を世界へ発信する取り組みを進めます。多くの人に親しまれる顕彰事業や芭蕉翁記念館の運営を行います。また、人づくり・まちづくりにつながる新芭蕉翁記念館の整備に向けた検討を進めます。	○芭蕉翁顕彰経費 ・第76回芭蕉祭の開催 ・俳句ユネスコ無形文化遺産登録に向けた活動 ○芭蕉翁関連施設維持管理運営経費 ・芭蕉翁記念館、蓑虫庵、史跡芭蕉翁生家、偲翁舎などの維持管理・運営 ○芭蕉翁関連施設改修経費 ・蓑虫庵茅葺屋根修繕工事	成果指標	芭蕉祭献詠俳句等応募数					
			成果指標の説明	芭蕉翁顕彰並びに芭蕉文学と俳句文芸の調査研究、継承、啓発、発信する取り組みの効果を測るための指標。 俳句、連句、絵手紙、ポスター原画の応募数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(点)	36,829	38,713	35,785			40,000
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績( )						

# まちづくりアンケート調査結果



傾向

- すべての年齢層で満足度は高いが、参画度は低い。
- 40歳代と70歳以上の満足度が高い。
- 40歳代の参画度が比較的高いがその他の年齢層は低い。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】	
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況	
1	効果が出ている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>画家元永定正、作家岸宏子の生誕100年事業を行うことで、地元出身の文化人の周知や、文化芸術に触れる機会とすることができた。</li> <li>コロナ禍で中止となっていた上野城新能を3年ぶりに開催することができ、その舞台上、市が主催する「こども能楽教室」の受講生が仕舞を披露したことで、伝統文化の伝承につながる取り組みとなった。</li> <li>「市展いが」へ高校生からの出品が50点あり、前年度に続いて全出品数の約3割を占めた。</li> <li>岸宏子氏から遺贈された建物の改修工事に着工した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新規事業案                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・市が所蔵する美術作品などを適正に保管し、活用できる施設を設置することで、市民が芸術に触れ、文化・芸術意識の向上につながるため、施設建設の準備を行う。</li> <li>・岸宏子記念伊賀文学館を開館し、指定管理制度を導入して市民が文学に触れる機会となるよう運営を行う。</li> </ul> </li> <li>○既存事業案                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生を対象に「市展いが」への出展支援を継続する。</li> <li>・「伊賀市民文化祭」は実行委員会での更なる自主的な運営を促す。</li> </ul> </li> </ul>	計画通り進めている
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄贈いただいた美術作品などの保管状況の改善と活用できる場所の検討。</li> <li>・岸宏子記念伊賀文学館の運営検討。</li> <li>・「市展いが」は、出品者数が横ばいで推移し、入場者数は減少している。</li> <li>・「伊賀市民文化祭」は、実行委員会へ業務委託し検討・準備・開催しているが、市への依存傾向がある。</li> </ul>		
2	効果が出ている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(公財)伊賀市文化都市協会による、市内小中学校や社会福祉施設へのアウトリーチ事業などにより、子どもたちや文化ホールを訪れるのが困難な人が文化芸術に触れる機会が増えている。</li> <li>・ホール事業における子ども(高校生以下)の参加率は約40%と、文化芸術に触れる子どもの割合が高くなっている。</li> <li>・青山ホールの吊天井・外壁等の改修工事が完了し、3月2日からホール利用を再開した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既存事業案                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者である文化都市協会に対し、ミュージアム青山讃頌舎での集客が見込める企画展示の検討を進めてもらう。</li> <li>・文化都市協会と連携し、市民が文化に触れる機会づくりの検討を行う。</li> <li>・文化会館等の改修を、長寿化計画により進めていく。</li> </ul> </li> <li>○廃止・縮小事業案                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・阿山ふるさとの森周辺整備に伴い、あやま文化センターを令和5年度末で閉館する。</li> </ul> </li> </ul>	計画通り進めている
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化会館等の文化施設の老朽化が進んでおり、改修を進めていかなければならないが、改修経費が高額なうえ、補助メニューも少ない状況にある。</li> </ul>		
3	効果が出ている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先人より連綿と受け継がれてきた芭蕉祭や芭蕉翁献詠俳句の募集により、市民に俳句づくりの意識付けがされ、俳聖松尾芭蕉の生誕地としてシビックプライドの醸成につながっている。</li> <li>・俳句のユネスコ無形文化遺産登録活動や奥の細道サミットなどにより、関係団体・自治体と連携し、俳句の文化的価値を広く発信している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新規事業案                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年1月から12月にわたって芭蕉翁生誕380年記念事業を実施し、芭蕉翁の周知、顕彰に加え、(公財)芭蕉翁顕彰会と連携し、俳句人口を増やす取組を行う。</li> <li>・俳諧資料を適正に保管し、活用するため、芭蕉翁記念館の機能を含む美術博物館の建設準備を行う。</li> </ul> </li> <li>○既存事業案                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸員による学校や放課後児童クラブへの出前講座などにより、芭蕉翁に親しみを持ってもらえる活動を継続して行う。</li> <li>・俳句の文化的価値を発信する活動を継続して行う。</li> </ul> </li> </ul>	計画通り進めている
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化により、小中学校からの芭蕉翁献詠俳句の応募数が減少している。</li> <li>・芭蕉翁記念館は老朽化が進んでおり、俳諧資料の保管状況も十分とは言えず、展示室も狭いため、芭蕉翁の周知、顕彰につなげにくい。</li> </ul>		
4				

## 伊賀流自治の視点

【主担当部局】

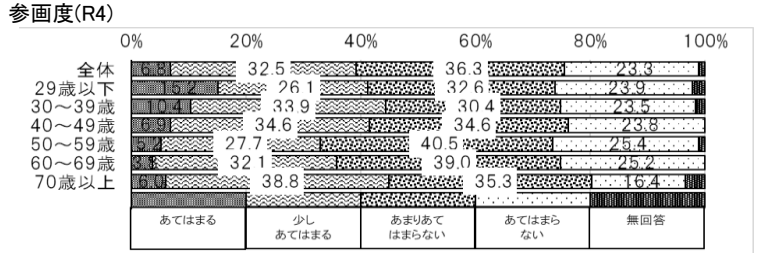
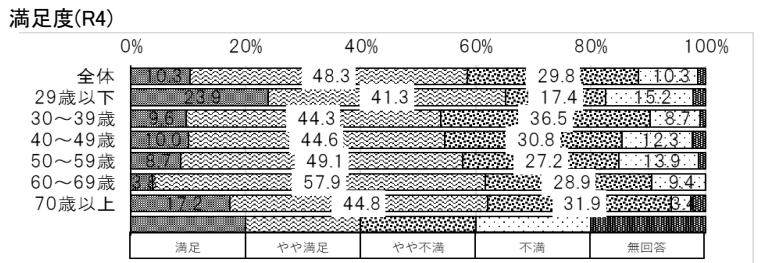
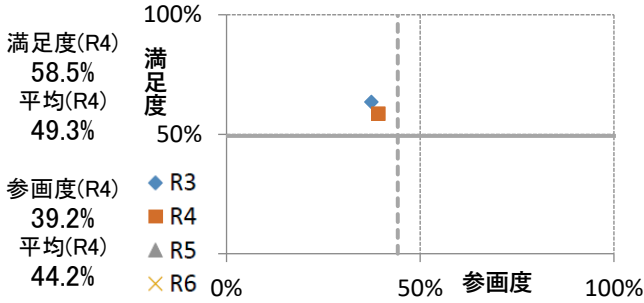
教育委員会

・ 貴重な歴史資料や文化財を調査・保存・管理し、それらに関する情報を発信・提供するとともに活用に努めます。  
 ・ 豊富な文化遺産をまちづくりに活用することにより、文化財への理解や保護する心を育て、市全体の魅力発信につなげます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2022(R4)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	<b>文化財保護</b> 市内に所在する未指定・未登録の文化財の調査・記録を促進して保存すべきものを指定・登録するとともに、文化財の保存・活用についての総合的な計画策定に取り組みます。 建造物などの有形文化財は、管理者と協議のもと保存・修理し、防犯・防災施設の整備に努めます。また、祭礼などの民俗文化財は、後継者の育成と道具の修理等を支援します。さらに、史跡や名勝、天然記念物は、文化財の価値をより高めるために、環境整備や適切な維持管理、周辺環境の保全に努めます。開発に伴い失われる埋蔵文化財は、発掘調査を実施し記録保存を図ります。	○文化財保存経費 ・国史跡の伊賀国庁跡・伊賀国分寺跡・御墓山古墳の環境整備 ・県天然記念物のノハナショウブの維持管理とオオサンショウウオの保護活動 ・埋蔵文化財保護のための調査・記録 ○文化財保存事業 ・重文観音提寺の防災設備整備事業や、重文町井家と猪田神社本殿の防災設備保守点検事業 ・重無民上野天神祭の楼車(幕)や県指定春日神社拝殿の修理 ○伊賀市文化財保存活用地域計画策定事業 ・文化財保存活用地域計画の素案作成	成果指標	指定及び登録文化財数(累計)					
			成果指標の説明	市内のさまざまな文化財を調査・研究した結果、保存・継承すべきものとして取り組んだ成果を測るための指標					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(件)	500	502	503			520
2	<b>文化財の活用</b> 身近な歴史や文化財の成り立ちや価値を伝えるため展示施設の整備に努めるとともに、講座の開催やパンフレットの作成などを通じて普及啓発活動を行います。また、旧崇広堂などの文化財施設を積極的に活用し、地域の歴史や文化財の魅力発信するとともに、史跡の価値や魅力をより高めるため、史跡整備の推進や維持管理に努めます。	○文化財保存経費 ・大山田郷土資料館においてボランティア団体による特別展及びワークショップの開催。 ○大山田郷土資料館維持管理経費 ・阿波地区にてオオサンショウウオ観察会等の実施。 ○文化財施設維持管理経費 ・指定管理施設(旧崇広堂・入交家住宅・旧小田小学校本館)の活用・維持管理 ○国史跡伊賀国庁跡保存整備事業 ・保存整備事業、指導委員会の開催、住民自治協議会との協同による講演会・展示会の開催	成果指標	文化財施設 入館者数					
			成果指標の説明	旧崇広堂・旧小田小学校本館・入交家住宅・城之越遺跡・大山田郷土資料館の入館・入園者数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	17,108	16,787	17,486			18,000
3	<b>歴史まちづくり</b> 上野城下町、観音提寺と大和街道鳥ヶ原宿、大村神社と初瀬街道阿保宿の3つの重点区域において、歴史的風致形成建造物の指定や修景助成、まち巡り拠点の整備や古民家再生事業などを推進することにより、歴史的な風致の維持向上を図ります。	○歴史的風致維持向上計画進捗管理事業 ・庁内会議・協議会の開催、関連事業の進捗管理 ・中部地整主催の歴まちフォトコンテストに参画 ・重点区域との協議による事業 ・重点区域の一つである鳥ヶ原地区と協議し、案内看板を設置し、パンフレットを作成した。	成果指標	歴史的風致維持向上計画事業 進捗状況					
			成果指標の説明	歴史的風致維持向上計画に掲載された個別事業の完了した割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	21	21	46			63
4	<b>歴史資料の整理・保存・管理</b> 『伊賀市史』編さん資料や、失われゆく歴史資料から地域の歴史と魅力を継承し、将来にわたって活用できるようにするため、資料の収集や整理作業を行うとともに、文書館の設置により公開・保存・管理体制の整備に取り組みます。	○歴史資料保存管理経費 ・寄贈資料の受贈、パンフレット、目録の作成、展示公開	成果指標	歴史資料 閲覧件数					
			成果指標の説明	歴史資料を収集・整理及び啓発・発信した結果を測る指標					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(件)	40	66	84			50



# まちづくりアンケート調査結果



傾向

- ・平均と比べ、満足度が高い。
- ・29歳以下の満足度が高い。
- ・50歳以上59歳以下、60歳以上69歳以下の参画度が低い。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】	
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況	
1	効果が出ている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国史跡の環境整備作業を行い環境の維持に取り組んだ。</li> <li>・県天然記念物のノハナショウブの維持管理と国特別天然記念物オオサンショウウオの保護活動を行った。</li> <li>・重要文化財観音提寺の防災設備整備事業や県指定春日神社拝殿の修理事業を実施した。</li> <li>・重無民上野天神祭の楼車(幕)保存修理や重要文化財の町井家住宅・猪田神社本殿・大村神社宝殿・高倉神社本殿等の防災設備保守点検事業を進めている。</li> <li>・文化財保存活用地域計画の素案が完成した。</li> </ul>	<p>○新規事業案 観音提寺木造多聞天立像や愛染院故郷塚屋根葺き替えなど、修理ができていない指定文化財の保存修理に取り組む。埋蔵文化財を収蔵している既存施設のうち、老朽化した施設(緑ヶ丘整理所)を処分する。</p> <p>○廃止・縮小事業案 伊賀市文化財保存活用地域計画策定事業は、策定完了と同時に廃止する。</p>	計画通り進めている
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の保存・修理は、多額の費用と期間を要する。伊賀市には、多数の指定文化財があるため、保存修理ができていない指定文化財がある。計画的に修理を進めることも必要であるが、予算と人員の確保が必要である。</li> <li>・出土した埋蔵文化財や民俗資料の適切な保管と集約が必要である。</li> </ul>		
2	効果が出ている点	<p>○既存事業案 文化財施設の指定管理者や地域と協議しながら、SNSやパンフレットを通じて歴史や文化財の魅力を発信する機会を増やす。</p>	計画通り進めている	
	課題			<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者により文化財施設において企画展が継続的に実施されることにより、文化財が周知され、価値や魅力が発信されている。</li> <li>・観音会や講演会を実施することにより、地域の歴史文化に対する興味や理解が深まっている。</li> <li>・国史跡伊賀国庁跡の整備を着実に進めている。</li> </ul>
3	効果が出ている点	<p>○既存事業案 初瀬街道と阿保宿について、歴史や文化財を紹介するパンフレットや案内看板の制作に取り組む</p>	計画通り進めている	
	課題			<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの重点区域(上野城下町、初瀬街道と阿保宿、大和街道と島ヶ原宿)のうち、上野城下町区域では、文化財や歴史的建造物の修理や活用が進み、町全体の歴史的風致が向上している。島ヶ原地区は観音提寺の防災設備整備や木造多聞天立像保存修理事業の着手、案内看板の設置など、歴史的風致の維持向上が図られた。</li> <li>・初瀬街道と阿保宿では、歴史的風致維持向上に向けた取り組みの成果が見える形となっていないため、事業を具体化させて進捗を図る必要がある。</li> </ul>
4	効果が出ている点	<p>○既存事業案 歴史資料を紙媒体だけでなく、デジタルの活用をさらに進める。</p>	計画通り進めている	
	課題			<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史資料の保存・管理する場所としての認識が広まり、閲覧や問い合わせ、寄贈が増えている。</li> <li>・江戸時代から明治時代にかけての古文書6件の寄贈資料を受け、これまでの寄贈資料と合わせ目録作成を進めている。</li> <li>・江戸時代から明治時代の絵画資料7件の寄贈を受けた。</li> <li>・寄贈資料(甲冑)についてパンフレットを作成し展示公開を行った。</li> <li>・所蔵している資料について、その価値や、資料により新たに明らかになった歴史について、展示やパンフレットの作成を行うなど、広く活用する必要がある。</li> </ul>



## 伊賀流自治の視点

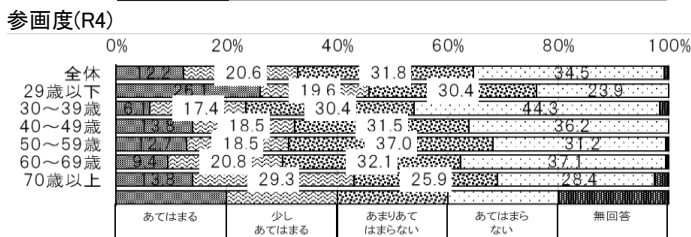
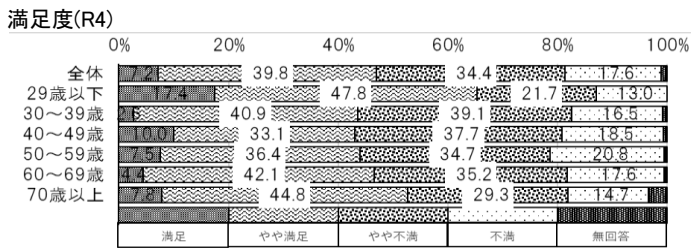
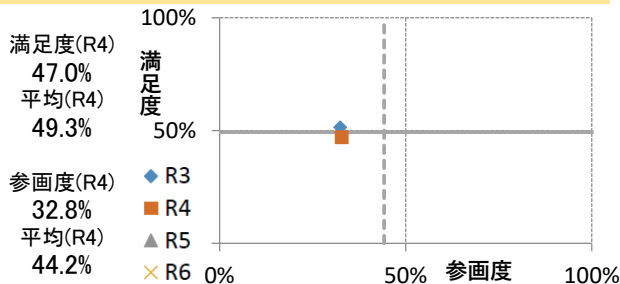
【担当部署】

企画振興部

・誰もが時間や場所を問わず、スポーツに親しむ機会の提供に努めるとともに、安心してスポーツを行うことができる環境づくりに努めます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2022(R4)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	<b>スポーツ振興</b> 市民一人ひとりが気軽にスポーツを楽しむ機会を創出するため、スポーツ推進委員活動やスポーツ組織・団体の活動を支援します。 スポーツ教室やスポーツイベントの開催を通じ、スポーツに親しみ、その魅力を身近に感じ、それぞれの立場でスポーツ活動に参画する機会の創出につなげます。	<b>○スポーツ活動振興事業</b> ・スポーツ協会やスポーツ少年団等への活動支援 ・コロナ禍での感染防止対策を行いながら、3年ぶりに次のスポーツイベントを開催 ・伊賀市スポーツフェスティバル10/9～11/13 9種目1,008人 ・伊賀上野シティマラソン(11/27)3部門に1,765人がエントリー ・伊賀地区駅伝競走大会(R5. 1/29)3部門に44チームがエントリー	成果指標	スポーツ活動実施率					
			成果指標の説明	まちづくりアンケートの中で、週1回以上のスポーツを実施している割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	28.8	53.6	12.2			43.2
2	<b>スポーツ施設再編・維持管理</b> (仮称)スポーツ施設再編・整備計画に基づき、全市的な視点で類似施設の統廃合や機能分担を行い、安全で利用しやすいスポーツ施設の整備、修繕、改修を計画的に行います。 施設をいつでも気軽に利用できるよう、インターネットによる空き情報の検索・利用予約サービスの導入について検討します。	<b>○体育施設整備事業</b> ・スポーツ施設再編・整備計画における施設ごとの個別計画の検討 ・スポーツ施設の長寿命化改修等 ・阿山B&G海洋センタープールの大規模改修に向けた設計業務 ・いがまちスポーツセンターへのソフトボール用防球ネット配備 ・大山田B&G海洋センターへのパラスポーツ用品(SSピンポン)の配備  <b>○体育施設維持管理事業</b> ・指定管理者委託料 ・施設維持管理修繕	成果指標	スポーツ施設稼働率					
			成果指標の説明	各スポーツ施設(プール、艇庫は除く。)の稼働率(利用のあった日/365日)の合計を施設数で除した数(平均稼働率)					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	45.96	41.22	49.50			55.15
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績( )						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績( )						

# まちづくりアンケート調査結果



傾向

- ・満足度は、29歳未満の若年層と70歳以上が他の区分より高くなっている。
- ・参画度は、30歳代が他の区分より低くなっている。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	<p><b>効果が出ている点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各スポーツ団体による感染防止に配慮した各種大会が、ほぼコロナ禍前の水準で開催されるようになってきており、スポーツ協会やスポーツ少年団、総合型スポーツクラブへの育成支援を行った。</li> <li>・「伊賀上野シニアマラソン」、「伊賀地区駅伝競走大会」等のスポーツイベントを3年ぶりに開催した。</li> <li>・市民等を対象とするスポーツフェスティバルでは、事前アンケート調査でのニーズや課題を踏まえ、参加しやすい環境を整えるため、①複数種目へ参加可能とする為の開催日程の複数化、②チーム編成を複数の住民自治協議会でも可能とするなどエントリー要件の緩和、③競技団体による運営や競技要綱作成の見直しを行い、新たに野球、パークゴルフ、健康体操などの新種目を開催した。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊賀市スポーツ推進計画では、成人の週1回以上のスポーツ実施率を高めることを目標としている。</li> <li>・少子高齢化の進展やコロナ禍、生活様式の多様化等により、これまで地域で行われていた運動会などが減少傾向にあり、地域でスポーツをする機会が少なくなってきた。</li> <li>・全世代が気軽にスポーツに接することで、個々のライフステージに応じた生活の中にスポーツを取り入れられる機会づくり(Sport in Life)が必要である。</li> <li>・スポーツへの興味や関心を高めていくための情報等の提供が必要である。</li> <li>・スポーツ実施主体の核となるべきスポーツ団体が主体的に活動するにあたり、事務局体制や人員面が整っていない中で、単に事務局移管を打診し続けることについては、限界が生じている。</li> </ul>	<p>○新規事業案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ささえる」面からイベント時のボランティアを確保する制度の検討を行う。</li> <li>・スポーツ推進委員の派遣を制度化し、地域団体や企業へのスポーツ指導を行う。</li> </ul> <p>○既存事業案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報いが連載コラム「スポーツのチカラ」、SNSなどでの発信を行う。</li> <li>・スポーツ団体の主体的な運営についての検討を行う。</li> </ul>	計画通り進めている
2	<p><b>効果が出ている点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設維持管理コスト削減の為、「伊賀市スポーツ施設再編・整備計画」に基づき、老朽化が進み利用率の低い施設の廃止に向けた協議を地域などの関係者を行った。</li> <li>・長寿命化対象としている阿山B&amp;G海洋センタープールでは、老朽化の進行により、今後散発的な修繕費用が発生することを防ぐため、大規模改修工事に向けた実施設計業務を行った。</li> <li>・障がいの有無に関係なくスポーツを楽しめるように、パラスポーツ資器材の配備を行った。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽施設や類似施設が散在しており、今後の維持管理経費抑制のため、廃止や集約化・多用途化を進める。</li> <li>・長寿命化を行う施設では、改修工事や安心安全に利用するための維持管理工事を引き続き実施するが、その財源確保が必要である。</li> <li>・施設利用率向上の為、分かりやすい施設情報の提供や市全体の公共施設予約システムの活用などの検討が必要である。</li> </ul>	<p>○新規事業案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市のDX計画に基づく施設予約システムの検討を行う。</li> <li>・若者のスポーツ離れが進む中、アーバンスポーツ等の新しいスポーツ分野の普及や実施環境の必要性を検討し、施設整備につなげる。</li> </ul> <p>○既存事業案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設の長寿命化改修工事や、修繕工事等を継続して実施する。</li> <li>・利用状況の低い施設の閉鎖(青山テニスコート)について、地元協議や跡地の利活用について検討を行う。</li> <li>・類似施設(緑ヶ丘テニスコート、小田テニスコート)の集約化などについての検討を行う。</li> <li>・施設での行事や施設情報を絶えず見やすく更新する。</li> </ul>	やや遅れている
3			

## 伊賀流自治の視点

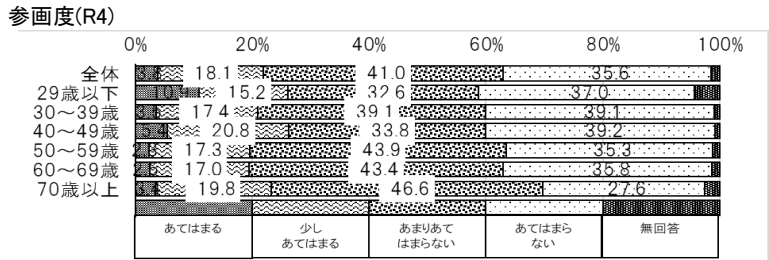
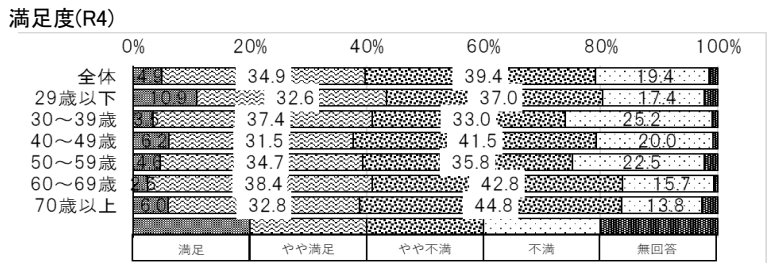
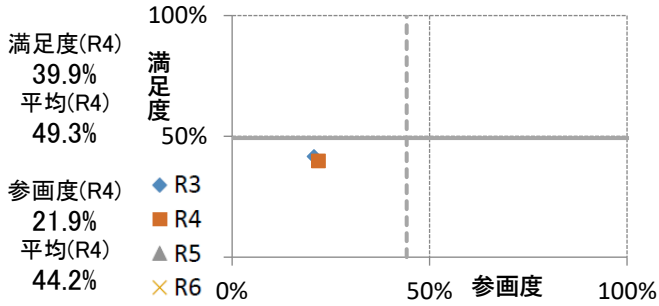
【主担当部局】

企画振興部

- ・学校等と連携し、若者のシビックプライドを醸成します。
- ・あらゆる主体がまちづくりへ積極的に参画できる機会を創出します。
- ・全国に向けて伊賀市の魅力や住みやすさをPRするとともに移住希望者へのきめ細かいサポートを行います。

【PLAN】	【DO】	【CHECK①】					
基本事業	2022(R4)年度の事務事業	KPI(成果指標)					
1 魅力発信 大学と連携し「忍者」に関する市民講座を開催することで、市民のシビックプライドの醸成と市外における認知度向上とファン獲得に努めます。また、ふるさと納税などを通じて、官民が一体となって伊賀市の特産品や地域資源をPRし、販路拡大や関係人口の創出に取り組みます。	○シティプロモーション推進事業 ・ふるさと納税の推進(個人版・企業版) ・関係人口の創出・拡大	成果指標	ふるさと納税人数				
		成果指標の説明	伊賀市にふるさと納税をした年間延べ人数				
		現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
		実績(人)	6,791	18,348	16,038		12,000
2 地域人材育成 小・中学校における郷土教育、市内高校と連携したキャリア教育により、地域を知り、地域との関わりをもち続け、地域に貢献する人材を育成し、将来的なUターンや定住につなげます。また、若者がまちづくりに参画しやすい環境を整備し、教育機関や企業等と連携し、次代の主役となる人材の育成と地域の活性化を図ります。	○地方創生推進事業 ・若者会議の推進 ・IGABITO育成(高校連携) ・三重大学伊賀連携フィールド事業の推進及び改善	成果指標	20～30代の年間転入超過数				
		成果指標の説明	住民基本台帳における4月1日から翌年3月31日までの20歳から39歳までの転入者数と転出者数の差				
		現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
		実績(人)	▲9	▲456	▲63		50
3 移住・交流 移住コンシェルジュによるワンストップ相談窓口のほか、東京、大阪等での移住相談会や移住プロモーションを実施するとともに、移住後も移住者同士の交流や地域との連携等、さまざまなつながりや活動のフォローを行い、伊賀市への移住促進に取り組みます。地域おこし協力隊を配置し、地域課題の解決や地域活性化の取り組みのサポートを行います。また、地域に根ざした活動を行うなかで将来的な隊員の定住をめざします。	○移住・交流推進事業 移住定住推進 ・おためし移住施設登録制度の推進 ・おためし移住施設利用促進助成金の推進 ・移住コンシェルジュによるワンストップ相談 ・若者定住のための奨学金等返還支援事業の推進 地域おこし協力隊確保に向けた推進	成果指標	相談を通じた移住者数				
		成果指標の説明	移住コンシェルジュによる相談を通じた移住者の人数。計画期間の累計人数				
		現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
		実績(人)	88	422	510		362
4		成果指標					
		成果指標の説明					
		現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
		実績( )					

# まちづくりアンケート調査結果



**傾向**

- 満足度、参画度ともに低い傾向となっている。
- 満足度については、29歳以下が他の世代と比較して高くなっている。
- 参画度については、事業自体が市外向けの事業が多くなっていることから、低くなる傾向になっている。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度はふるさとの納税の寄附件数及び、寄附金額の実績が前年比で1割程度減少したが、登録を希望する事業者は増加していることから伊賀の産品、製品等のPR効果は図れている。</li> </ul>	やや遅れている
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、ふるさと納税獲得に向けて新たな自治体の参入や、専門部署等の設置により、寄附金の奪い合いが起こっていることから、現在行っている中間事業者への委託に加え、専属職員の増員等を行い、新たな返礼品の発見やPR戦略の方策を立てる必要がある。</li> </ul>	
2	効果が出ている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>若者会議のメンバーが行政の事業に参画することにより、若者会議の活動に関する認識が広がっている。</li> <li>高校連携については、各高校の活動を市の広報等を通じて発信することで、行政と高校との連携強化に繋がっている。</li> </ul>	計画通り進めている
	課題	<p>地方創生推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地方創生に対する市職員の意識醸成と意識向上</li> <li>若者会議、高校連携</li> <li>若者会議については、実際の活動状況の発信を行うためのツールが無い。</li> <li>高校連携については、県立3校での連携及び今後の伊賀地域を考える人材の育成が必要である。</li> </ul> <p>三重大連携フィールド事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連携フィールドに関する協定の締結後10年を経過するが、忍者関連事業については実績があるが、それ以外の部分となる、地域活性化活動等について、今後具体的な取り組みが必要である。</li> </ul>	
3	効果が出ている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>「移住から定住にかけて寄り添う相談態勢」として、移住コンシェルジュが移住希望者の希望に沿って市内を案内する「ぐるっと伊賀巡り」や、移住相談等に関して丁寧な対応を行うことから、移住希望者による相談件数が増加している。</li> </ul>	計画通り進めている
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>移住者から、現在のHPでは必要な情報が検索しにくいとの意見がある。</li> <li>移住コンシェルジュの継続した育成が必要である。</li> <li>近年の移住者の傾向として、単身世帯の移住者が増える傾向があるため、移住者数の増加に関しては大きく伸ばすことが難しくなる可能性がある。</li> <li>コロナ後の人口動向が再度東京一極集中の傾向があることから、新たな移住施策を検討する必要がある。</li> <li>地域おこし協力隊の確保に向けて、伊賀市のPRIに加え、受入団体の隊員に対する定住に向けたサポート体制構築に向けての意識醸成が必要である。</li> </ul>	